

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900047
法人名	社会福祉法人鷹羽会
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事519-1
自己評価作成日	令和元年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和元年7月26日	評価結果確定日	令和2年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には田園が広がり、静かで落ち着いた環境にあります。吹き抜けの天井からはいつも明るい日差しが入り、リビングにはいつも入居者さんたちが集まっています。恵まれた環境の中入居者さんには、ゆったりと過ごしていただいていると自負しています。また、地域の方たちからはいつも温かい支援を受けており、ご近所との関係も良好です。認知症の進行、身体的な衰えがあっても、それぞれがひまわり苑での生きがいを見つけて生活していけるようこれからも支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひまわり苑は、田園風景広がる地に位置する木造平屋建て1ユニットの事業所である。町内には母体法人が運営する特別養護老人ホームやケアハウス、グループホームが居を構える。設立時からの理念「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために」は、法人内で共有されており、本事業所でも理念を反映した事業計画のもと、職員は日常的に連携を図りながら理念の実現に努めている。その様は、内外の研修や委員会活動、運営推進会議等において確認出来る。また地域とのつきあいについても、公民館活動の積極的参加を始め、隣家との日常的な行き来や防災訓練等、顔の見える関係づくりがなされ、地域の一員として認知されている。また日常的な入居者支援についても、年代別に生活歴を記載するアセスメントシートで潜在化するニーズの掘り起こしを図る等、本人本位の支援に努めている。実際、新聞購読や晩酌、馴染みの美容院利用、かかりつけ医への受診支援等、一人ひとりの生活歴や習慣を尊重した支援を試みていることが確認出来る。職員間のチームワークも良く、手作りの食事や、一人ひとりのニーズに応じた生活支援、外出等の余暇活動等を試みながら、その人らしい暮らしの充実に努めている
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の理念のもと、思いやりをもって日々業務に取り組んでいる。	設立当初より理事長が作成。解説を添え、より深い理解と職員間での共有に努めている。玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのお付き合いを大切にし、ご近所付き合いを継続している。いつもひまわり苑の存在を気にしていただき見守っていただいている。	公民館活動に参加する等、平素から地域とのつきあいを大切にしている。特に隣家とは、避難訓練の参加を始め、野菜をいただいたり、子どもが遊びに来たりと日常的に交流を重ね、互いにとっての「安心の関係」が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所で認知症による行方不明の方が苑に迷ってこられ、ご家族に連絡して事なきを得た。ご家族の連絡先を聞いて、なにかあったときのために情報交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員、区長、行政（役場）、包括支援センター、ご家族、職員の参加をお願いしている。地域の情報を得ることができ、苑の問題なども相談している。	地域住民、行政も参加し2ヶ月に1回実施。家族の参加が難しくなっているが、議事録を送付する等、情報発信にも努めている。運営状況の報告や地域の情報提供等が行われ、それをもとにした意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や窓口でのやり取りでいろいろな情報を得ようとしている。また災害等の避難について尋ねているが、あまり積極的ではなく運営推進会議の参加もあまりない。	平素より、定期的な訪問や電話により、情報提供や相談を行う等、率直に意見を述べる事が出来る良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室にカギはなく、日中は玄関も施錠していない。ベッド柵を四方に取り付ける、手袋、ベルトなど身体拘束に当たることについては年1回は職員全員で研修を受けており、職員会議で話し合っている。	職員は、委員会活動を始め、外部研修やその後の内部研修等を通して、具体的な知識の定着を図り、言葉掛けも含め、禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年身体拘束、高齢者虐待についての研修を受けている。どんなことが虐待に当たるのか認識不足にならないよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年管理者が研修を受けている。今年度は介護職員にも研修を受けてもらい、内容が難しいといわれるが理解をしてもらいたい。	社会福祉協議会主催の研修受講や、その後の伝達研修を行う等、制度の理解に努めている。本人や家族に対しての説明や資料準備等については確認出来なかった。	「内容が難しい」との職員からの声を踏まえ、外部研修の活用や必要に応じての内部研修の実施等を通して、制度の理解を期待したい。併せて資料の準備や、本人と家族への説明を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項について詳しく説明し、確認と同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は、日々の生活や会話の中からくみ取るよう努力している。ご家族の意見は直接面会や行事参加、電話などで聞いている。	入居者とは日常的なやりとりの中で、家族については面会時を利用し、意見や要望の聴取を行っている。面会の少ない家族には、電話等で定期的に報告を行っている。相談先を明示した掲示物も確認出来る。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞き、全員で検討し反映できるよう努めている。	職員会議を毎月1回開催し、職員の意見や提案の収集を行っている。会議では、勤務時間や仕事内容等について忌憚のない意見交換がなされ、管理者は運営に反映するよう努めている。職員へのヒアリングから相談や提案がし易いことが確認出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得や、研修への積極的参加を促し、職員の努力や実績を認めている。有給消化を含めて働きやすい環境になるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に当たっては年齢や性別に関係なく本人のやる気を重視している。外部研修や学びたいという意欲を大切にしている。	職員の採用にあたっては年齢や性別等を理由に採用対象から排除することはない。実際、幅広い年齢層の職員が勤務している。可能な限り希望を尊重した勤務シフト、外部研修の案内と受講時の勤務調整、職員一人ひとりの特技を活かした役割分担等、働きやすい職場づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協議会や市町村などからの人権研修には積極的に参加するよう勧めている。また新聞やテレビからの情報も大切にしている。	市町村主催の人権研修参加、及びその後の伝達研修を通して、人権教育と啓発活動に努めている。玄関には「倫理綱領」の掲示が確認出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修や社会福祉協議会などからの研修への参加、スキルアップのための資格取得を応援し、受講を勧めている。研修日は就業扱いとしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町地域包括支援センターの地域ケア会議や田川地区介護サービス事業所協会の専門部会の研修や施設見学に職員が参加している。また医師会が行う研修にも参加するよう勧めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、職員が何でも言える関係を築くことが大切であり、そのために日頃の会話や接し方に気を配っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にその方の生活歴などの情報をご家族からいただくようにしている。その中で家族の要望や不安に思うことを聞き出せるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やご本人との会話の中から情報収集し、得たことから今一番してもらいたいことをつかむようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場だが、それ以上に長時間生活をともにしているので家族のような気持ちで接している。しかし節度をわきまえ、行き過ぎない適度な関係を保つよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の一番の理解者は家族だが、職員も同様な気持ちで接しているので家族とともに協力しあって支援していく。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医を継続し、安心感を持ってもらう。また、行きつけの店やなじみの方との交流が継続できるよう支援している。	友人がいつでも自由に面会出来るよう、また面会しやすい言葉かけ等に留意し、馴染みの関係が継続するよう努めている。かかりつけ医の受診や、美容院の利用継続、自宅付近の菓子屋、うどん屋等、行きつけの店に立ち寄る等、馴染みの場所との関係継続にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもる方はおられず、ほとんどの方は1日をリビングで過ごされている。たまには言い争いもあるが、自宅にいるのと同じような自然な交流ができるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院に移られても職員が面会に行ったりしてその後も交流が続いている。お米や野菜の提供をその後も継続してくださる家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日には食べたいものの希望を聞いたり、欲しがっておられるものをプレゼントしたりしている。ご本人の要望で家族の面会や電話での会話をお願いすることもある。	入居者との普段の何気ない会話や、家族への情報収集により、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。生活歴を年代別に記載するアセスメントシートや、生活習慣を尊重した日々の支援内容から、潜在化するニーズの把握に努めていることが確認出来る。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人に一人ずつ職員の担当を決め、ご家族や日常会話の中からその方の生活歴を聞き出しまとめている。夜勤時に記録を読んでその方の人となりをつかむようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックでその日の体調を把握し、日常会話によって心の状態を察するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で担当者が一人一人のその月の状態(健康面や生活面)を報告し、家族の面会時には状況報告をして要望や意見がないか聞いている。	多様なアセスメントツールをもとに本人本位の介護計画作成に努めている。職員等の意見を参考に、定期的、かつ変化に応じて見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録はチェックしているが、実行したことだけになりがちで介護計画に反映しているかは難しい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で発せられる何気ない言葉や様子から何を望んでおられるかを感じ取り、実現できるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設や自然を活用し、自宅にいるような近所付き合いもしながら安心して快適な生活を続けられるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅におられた時のかかりつけ医を継続してもらっている	一人ひとりのかかりつけ医を尊重し、職員対応で受診を行っている。複数の医療機関への受診にも対応している。週1回の訪問看護と24時間の連絡体制もあり、一人ひとりの希望やニーズに合った受診支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医への受診内容を週1回の訪問看護来援時に報告し、アドバイスを得ている。体調が悪くなったときには受診の相談をしたり24時間体制で夜間でも相談に乗ってもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でも職員が面会に行き、病院関係者から状況を聞いて様子を把握している。退院指導時は家族とともに医療面や食事面のアドバイスを受け、退院後の生活の参考にしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明して理解を得ている。施設のできることとできないことを理解してもらっている	入居時、指針をもとに説明を行っているが、現時点では看取りの希望はない。医療との連携も万全ではなく、職員も「難しい」と考えている意見が多い。今後、職員間で話し合いを行っていく予定である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救命救急講習への受講を勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報、誘導、消火など年2回避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署に来てもらい適切なアドバイスを受けている。また地域、行政の方と一緒に災害時の避難場所の提供をいただいたり経路について話し合っている	年2回の避難訓練では、毎回夜間想定で行い、内1回は消防署の立会もある。隣家の参加や運営推進会議で具体的な対応について協議する等、地域との連携強化に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人を尊重し、プライバシーを損なわないよう居室への出入りには声掛けをしている。言葉づかいにも配慮しちゃん付けやあだ名での呼びかけをしないよう話し合っている	守秘義務の徹底や普段の言葉掛けに留意した対応を行っている。一人で過ごす時間を大切にしており、新聞購読の継続や晩酌等、一人ひとりの生活歴や習慣を尊重した暮らしの実現に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でさりげなく希望や思いを聞き取り、実現できるよう配慮している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方の中で、みんな一緒にできること、一人一人のペースであることを分けて支援している。したくないことを無理強いしないよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時には職員と一緒にその日の天気や気分に合わせて洋服を選んだりお化粧をしていただく。買い物時にはほしいものを購入できるよう支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や暦にあった献立を取り入れ、手作りの家庭的な料理になるよう工夫している。下ごしらえ、配膳、食器洗いなどそれぞれのできることを職員と一緒にしていただいている。	固定化された献立ではなく、入居者のその日の希望や好み、旬の食材を取り入れ、彩りにも配慮した食事提供を行っている。米・味噌・醤油を始め、野菜・果物等、馴染みのある地域の食材を使用している。入居者間の相性に配慮した席で職員も一緒に食を囲み和やかな雰囲気作りを行っている。メニューの選択や弁当の注文、年3回の外食等も実施し、食事が楽しみなものとなるよう努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれにあった食事の量を考え、食べやすい大きさに切って提供している。また毎日の水分量、食事量を記録し、十分な量が取れているかチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず職員が見直し仕上げている。訪問歯科の指導により定期的な受診もし、口腔スポンジや舌ブラシを使って口内の清潔保持に気をつけている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を細かくつけ、状況に応じて声掛け、誘導、見守り、介助をしている	排泄の確認記録をもとに、一人ひとりのパターンや習慣を把握し、その人に合ったトイレ誘導を行っている。日中は全員トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し、1日の目安に達するようにしている。野菜の多い食事に心がけ、毎日の運動やお腹のマッサージなどもとりいれている。主治医に相談し、薬を服用することもある		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれにあった湯温や体調に合わせた入浴の仕方をしている。入浴順はいつも同じではなくその日の気分を配慮して決めている	週3回午前に入浴を行っている。時間については、職員都合ではなく、一人ひとりの希望や状態に応じ、柔軟に行っている。歌や会話が弾む等、楽しみやくつろぎの場となるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングのテーブル席やソファで過ごされることが多いが、体調が悪い時や足に浮腫が出ているときは居室のベッドで休んでもらっている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬方法や変更があったときは随時申し送りノートで職員に伝えている。服薬時にはご本人と声出し確認を行い、飲み終わった袋を取り置きしている。薬の説明書もいつでも確認できるようファイルに閉じている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることや得意なことを生かしてもらえよう一人一人に合ったプランを立てている。晩酌する方には夕食時に提供し、新聞を読まれる方には読みやすいよう場所を提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの道の駅には季節の花を見に訪れているが、病院受診時に遠回りして通ったり、職員の外出時に役場や郵便局に行ったり、買い物に同行していただいている	一人ひとりの希望や状態に応じて、周辺を散歩したり、職員と一緒にスーパーへの買物やコンビニで珈琲を飲んだり、日常的な外出支援に努めている。外食や季節の花見にも定期的に出掛けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診や買い物時、自分の財布から出してもらったり、銀行でATMを使って引き出したりする方もおられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から品物が届いた際は必ずお礼の電話をしてもらっている。はがきが届いたときはお部屋に飾ってもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ思い入れのある品物を飾っていただいている。写真や家族からのプレゼントがたくさん並べられている。施設の花壇に咲いていた花やご近所からいただいた花をいつも飾っている。	リビングは広く明るい。壁には季節感を出すために花や行事の飾りを施し、生活に潤いを与えている。リクライニングのソファが個人単位で配され、くつろぎの空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓の他に一人一人にリクライニングのソファが用意されている。一人になりたいときは居室でくつろぐことも自由にできる		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置いてあるものは入居時に自宅から持ち込まれたもので、思い思いにイスやソファ、仏壇などが置かれ、ご自宅のような感覚を持っていただいている。	各居室には、各自の生活歴や趣味、好みをうかがわせる物や、掃除機、空気清浄器等、生活感をうかがわせる物がさりげなく置かれ、一人ひとりが居心地よく過ごせる空間づくりに努めていることが確認出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全体が見渡せるオープンな構造で、どこに何があるかすぐわかるようになっている。安心で安全な空間を心掛けている		